施工説明書

INAX

緊急止水弁付埋込2ハンドル混合水栓

一般地用　SF-8RQ-DS
　　DSK-8RQ
寒冷地用　SF-8RQN-DS
　　DSK-8RQN

工事店様へのお願い
商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。

施工の前に

安全上のご注意

●施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
●ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。
　いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●施工完了後、正常に作動することを確認してください。お客さまに引き渡すときは
　ご使用上の注意にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
●この施工説明書は、ご使用上の注意と共にお客さまで保管頂くように依頼してください。

注意 …… 取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。

⚠ 注　意	
衝撃を与えたり、もたれかかったりしないでください。 ※破損してケガをしたり、漏水や故障の原因となります。	🚫
お客さまに引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。 ※凍結破損で漏水し、家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。	❗
呼び13のJIS品水道用架橋ポリエチレン管M種と水道用ポリブテン管以外の樹脂管は、取り付けないでください。 ※漏水の原因となります。 ●水道用架橋ポリエチレン管E種は内径が異なるため取り付けできません。	🚫
湯水を逆に配管しないでください。 ※水を出そうとしても、湯が出てヤケドすることがあります。	🚫
修理技術者以外の人は水栓を分解したり、修理したりしないでください。 ※故障や水漏れの原因になります。	🚫

本製品の仕様と使用条件

項　　目	仕　　様	
給水·給湯配管接続	水道用ポリブテン管　呼び13 水道用架橋ポリエチレン管　M種　呼び13 呼び径25 のサヤ管に対応(呼び径22 は現場手配)	
使用圧力範囲	0.05～0.75MPa{0.5～7.6kgf/cm²}	
通水温度上限	80℃	
使用可能水質	上水	
使用環境温度	【一般地】SF-8RQ-DS :0 ～40℃ DSK-8RQ :0 ～40℃	但し、内部の水を凍結させないでください。
	【寒冷地】SF-8RQN-DS :-20 ～40℃ DSK-8RQN :-20 ～40℃	

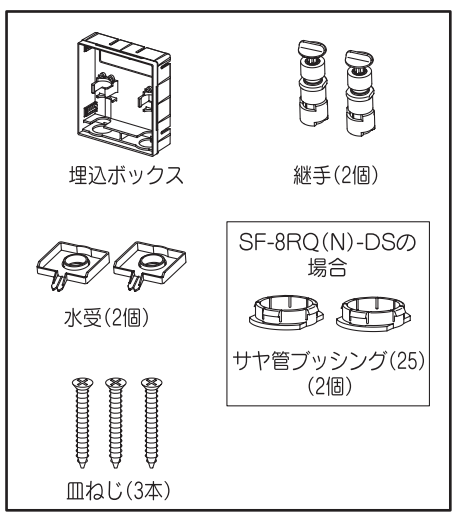
その他の条件

●給水圧力が0.75MPa{7.6kgf/cm²}を超える場合は、市販の減圧弁等で適正圧力(0.2 ～0.4MPa{2.0 ～4.1kgf/cm² }程度)に減圧してください。

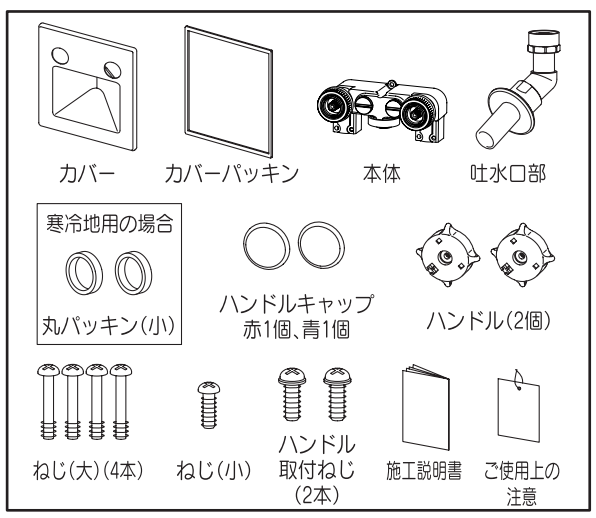
●不意の出湯によるヤケド防止のため、給湯器の設定温度は60℃以下をおすすめします。

部品の確認

●壁工事前に使用する部材



●壁工事後に使用する部材



施工前のご注意

取付に必要な工具

取付にはプラスドライバー、モンキーレンチまたはスパナ類、樹脂管カッター、壁板開口用カッターが必要です。

その他の注意点

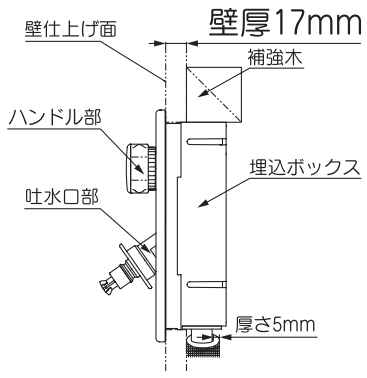
●給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確認してください。
　※逆配管では表示通りに湯が出ません。
●商品の表面には、直接工具を掛けないでください。
　※工具を掛ける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。
●開梱、取付けの際には商品の表面にキズを付けないように十分に注意してください。

●必ず配管中の異物を完全に洗い流してください

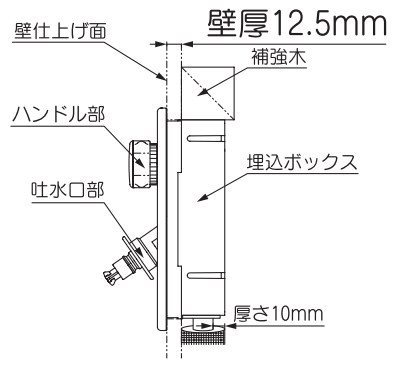
●壁内空間は40mm以上確保してください。
●水道工事は十分工程を打ち合わせのうえ行ってください。
●本商品は壁板の厚み9.5mm、12.5mmに対応しています。
　その他の場合はボックス端部を壁仕上げ面に合わせて
　施工することで対応できます。

①サヤ管なしの場合

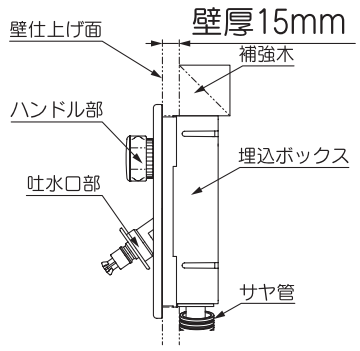
1）保護材厚さ5mmの場合
　壁厚17mmまで



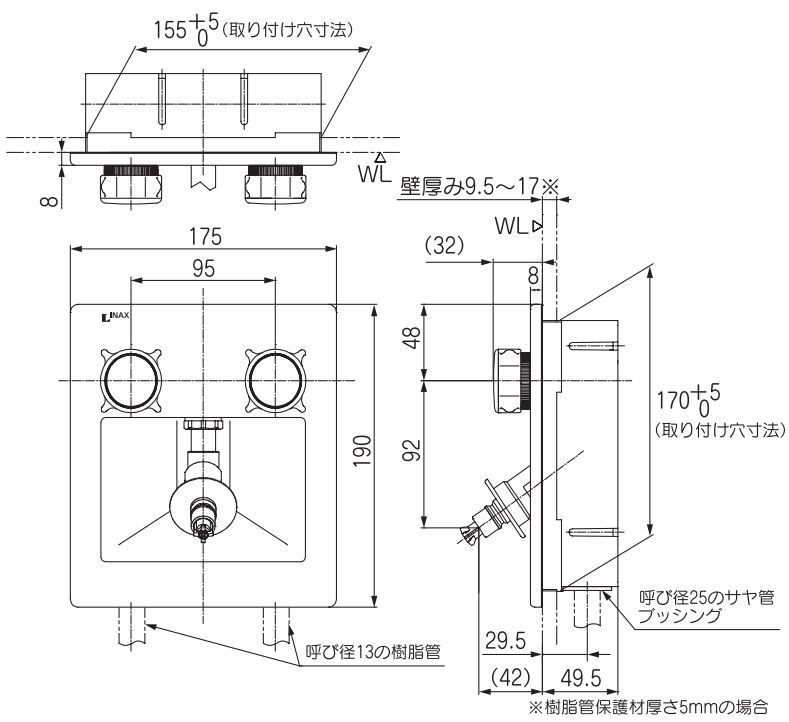
2）保護材厚さ10mmの場合
　壁厚12.5mmまで



②サヤ管ありの場合 壁厚15mmまで



施工完了図



株式会社 INAX

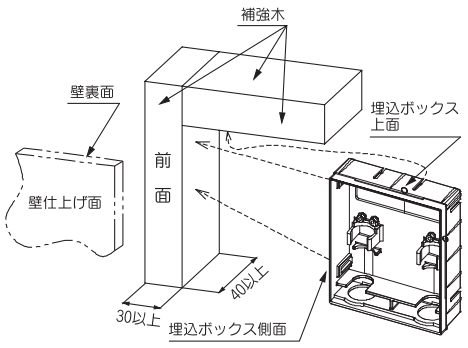
●商品・施工方法についてのお問い合わせ
お客さま相談センター　商品相談窓口
ナビダイヤル　TEL 0570−017173
※ナビダイヤルは、PHS・IP電話などご利用できません。TEL 0562-31-0793をご利用下さい。

受付時間　平日　9:00～19:00
土日・祝日 10:00～18:00
(年末年始、夏期休暇は除く)

施工方法

① 埋込ボックスの取付

1. **水栓取付け位置に合わせて補強木を設ける。**

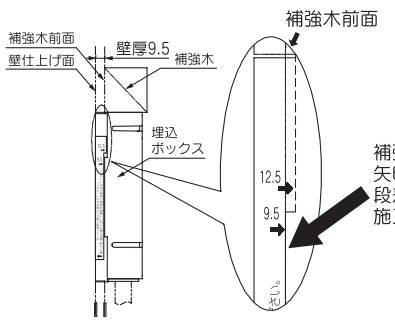


注意
- 埋込ボックスが上面と側面の2面で固定できるよう補強木を設ける。
- 補強木は前面が壁板の裏面と密着するように固定する。
  ※故障・破損の原因となります。
- 補強木には30mm×40mm以上の間柱材などを用いる。

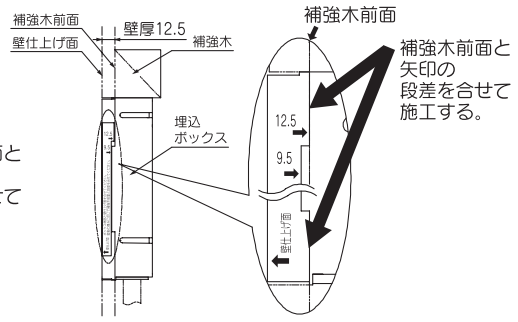
2. **埋込ボックスの前面と壁仕上げ面が一致するように固定する。**

9.5mm、12.5mmの場合はボックス側面についている段差を補強木の前面に合わせる。それ以外の場合は壁仕上げ面に合うように施工する。

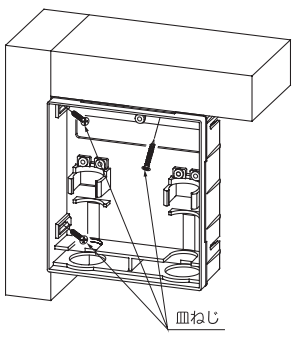
壁厚9.5mmの場合



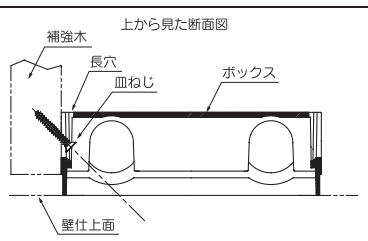
壁厚12.5mmの場合



3. **ねじ（大）はボックスの側面（2ヵ所）、側面と反対側の上面（1ヵ所）取付ける。**

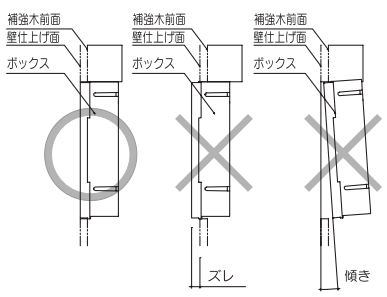


ポイント



皿ねじはボックスに対して斜めに取り付ける。

注意
- ボックスの前面と壁仕上げ面が一致するように取付ける。ズレや傾きがある場合は、ボックス取付ねじを緩め、再度位置調節して±1mm以内に取付けなおす。

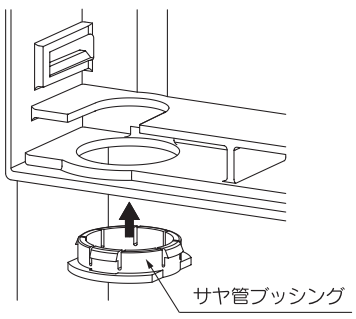


  ※ズレや傾きがあると、ハンドルとカバーが干渉したり、固定ナットが取付けられなくなる恐れがあります。
- 必ずボックスの2面を補強木などに取付ける。
  ※一面のみの取付けですと、ガタつきにより破損が生じ、水漏れの原因となります。
- ボックスはガタつきが出ないように強固に取付ける。
  ※ガタつきにより破損が生じ、水漏れの原因となります。

② 埋込ボックスへのサヤ管の取付け

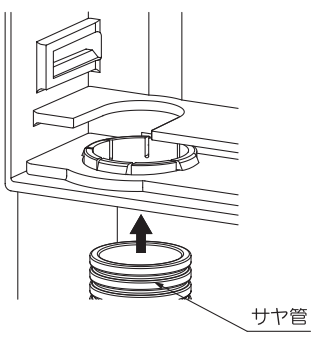
●サヤ管を使用しない工法の場合は「③埋込ボックスへの継手の取付け」におすすみください。

1. **サヤ管ブッシング（サイズ25）を埋込ボックスに取付ける。**



注意
- サヤ管のサイズが22の場合、サヤ管ブッシング（75-1890、または未来工業製　品番：GCBZ-22）を購入し、使用する。

2. **サヤ管を、サヤ管ブッシングに差し込む。**

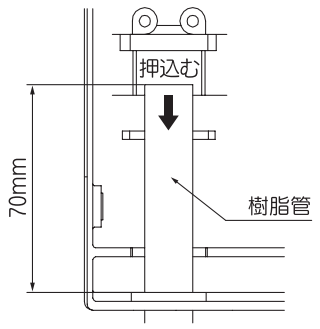


確認
- サヤ管を下方へ引っ張って、抜けないこと。

③ 埋込ボックスへの継手の取付け

注意
- サヤ管を使用する工法の場合、埋込ボックスと継手の取付は、ヘッダーと樹脂管の接続より先に埋込ボックスに継手を取付けて下さい。
  ※埋込ボックスに継手が取付できない、または樹脂管が継手への差込不足になる恐れがあります。

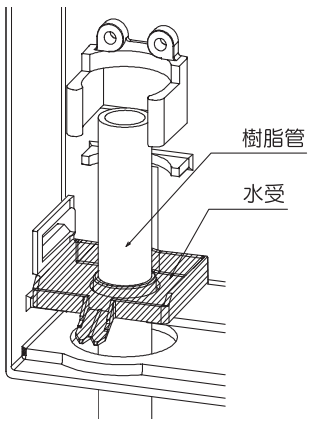
1. **樹脂管を押し込んだ状態で、70mmが確保できるよう、樹脂管を管軸に直角に切断する**



注意
- 樹脂管は斜めの寸法差2mm以内に真っ直ぐ切断し、段切りやゴミなどがないこと。
- 面取りはしない。
  ※漏水の原因となります。

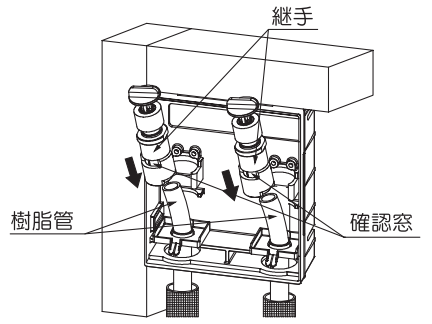
※樹脂管は斜めの寸法差2mm以内に真っ直ぐ切断し、段切りやゴミなどがないことを確認し施工してください。

2. **水受（2ヵ所）を樹脂管に差し込む。**



注意
- 水受は必ず設置する。
  ※水受けを差し込み忘れると、万一、漏水時に壁表側で漏水検知ができなくなります。

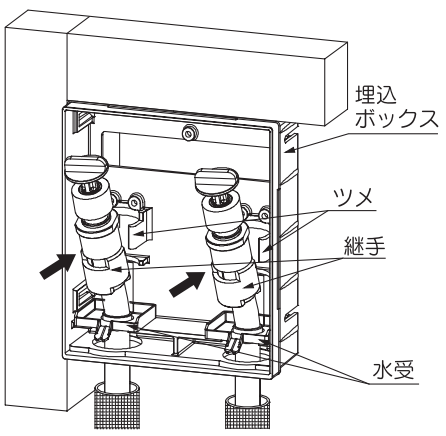
3. **継手（2ヵ所）に樹脂管を差し込む。**



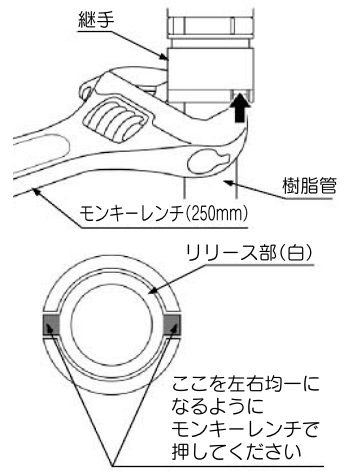
注意
- 樹脂管にキズを付けたり、折れたりしないように注意する。
  ※漏水の原因となります。

確認
- 樹脂管が、確認窓から見えること。
- サヤ管を使用する工法の場合は、ここで樹脂管を引っぱり抜けないことを確認する。

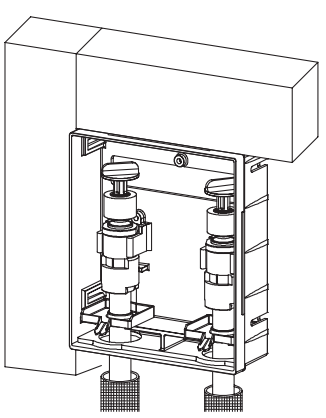
4. **継手を埋込ボックスのツメ（2ヵ所）にはめ込む。**



樹脂管の取り外し方について
- 差し間違えた等により継手から樹脂管を抜く場合は、水受を継手と共に上に引っ張ると樹脂管を抜くとこができます。
- 水受を入れ忘れた場合は、継手を埋込ボックスから引き出してモンキーレンチ（推奨サイズ：250mm）等の工具でリリース部を押して、樹脂管を抜くことができます。

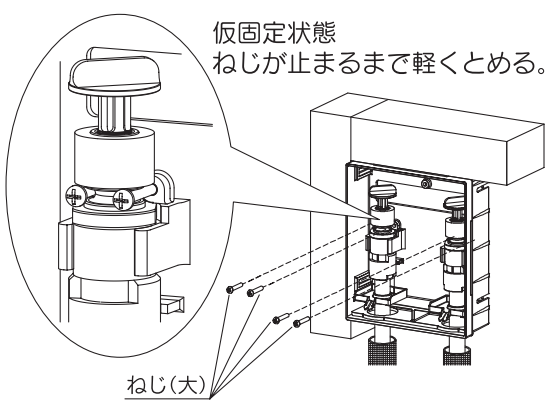


5. **樹脂管を下方へ引っ張って、抜けないことを確認する。**



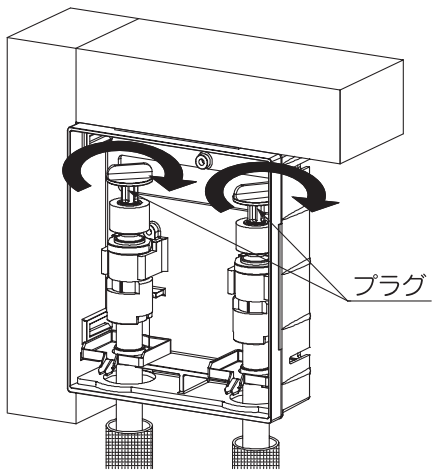
仮固定方法

樹脂管の癖でボックスから継手が外れる場合は本体取付ねじ（大）で仮止め（4ヵ所）することもできます。



4 耐圧検査

1. 配管の耐圧検査をする。



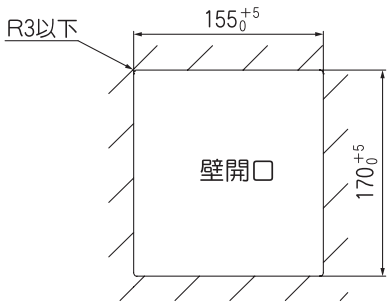
ポイント
- プラグを少し緩めると（締めたところから約2回転前後）エア抜きができます。エアが抜けたらプラグを軽く締めてください。
- プラグは2.5MPa{25.5kgf/cm²}の配管耐圧検査に対応できます。

注意
- Oリングシールのため、プラグは軽く締めるだけで止水できます。
  ※強く締めすぎるとプラグが破損し、耐圧検査ができなくなります。
  その場合は継手の中のプラグの破片を取り除き、本体とハンドルを取付後バルブを閉めて耐圧検査をしてください。
- 継手本体のOリングにキズをつけない。
  ※漏水の原因となります。
- プラグを止水栓として継続的に使用しない。
  ※漏水の原因となります。

これで壁工事前の作業は終了です。次の作業は壁工事後になりますので、残りの部材は大切に保管してください。

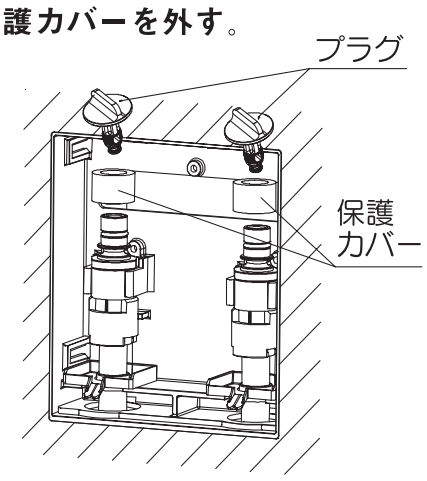
5 壁板の開口

1. 下記のように壁に穴をあけ、壁をはりつける。



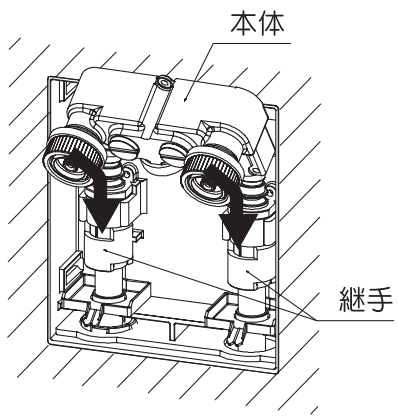
6 本体の取付け

1. 継手についているプラグと保護カバーを外す。

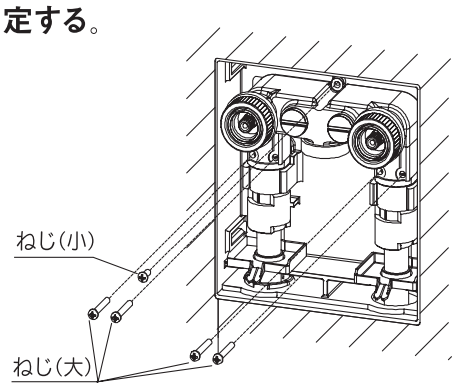


ポイント
ねじで仮固定していた場合はねじを一旦取り外します。

2. 継手に本体を差し込む。

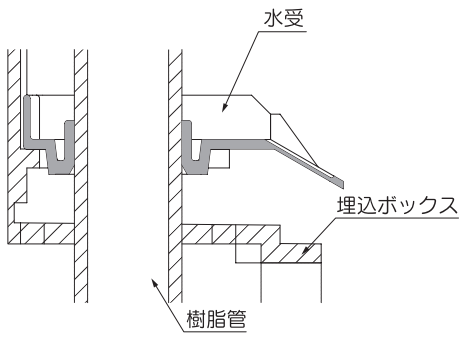


3. 取付ねじ（大）4本、ねじ（小）1本で埋込ボックス（5ヶ所）に固定する。



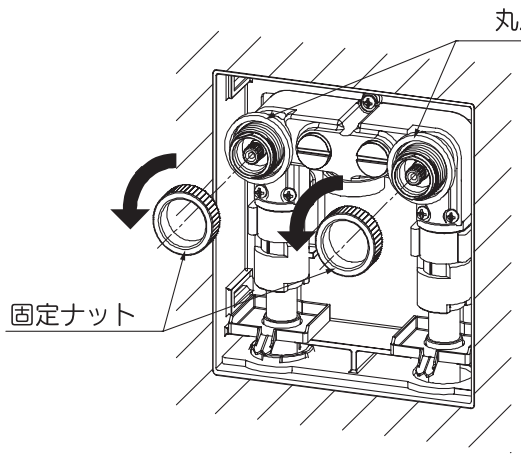
注意
- ねじはガタつきのないようにしっかり締め付ける。
  ※故障・破損の原因となります。

4. 水受を埋込ボックスのくぼみ（2ヵ所）に押し込む。



7 カバーの取付け

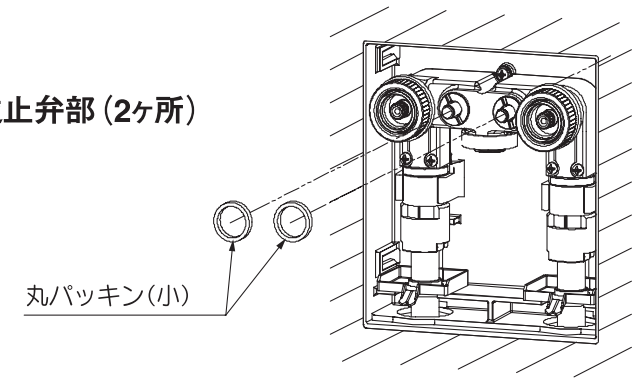
1. 本体についている固定ナットを外す。（2ヶ所）



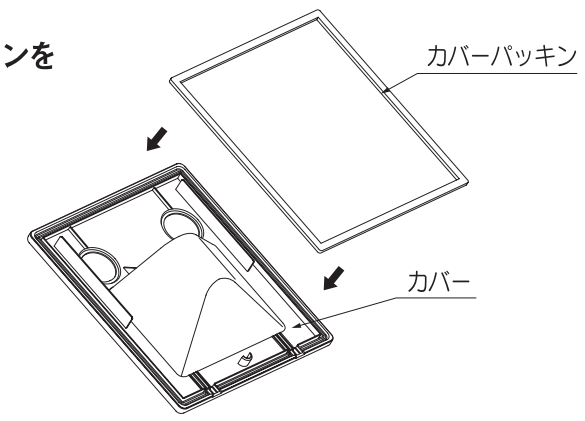
注意
- 丸パッキン（大）は外さないこと。

寒冷地用の場合

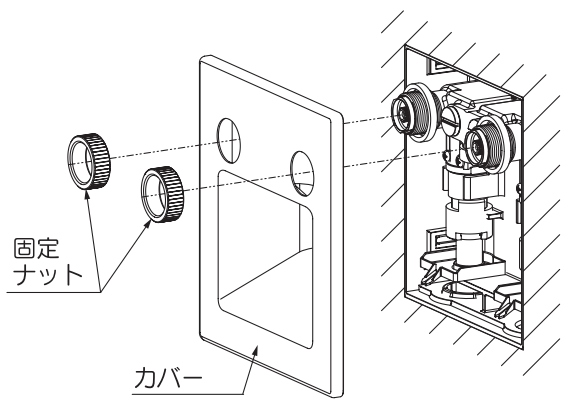
丸パッキン（小）を逆止弁部（2ヶ所）に取り付ける。



2. カバーに同梱のカバーパッキンをはめ込む。

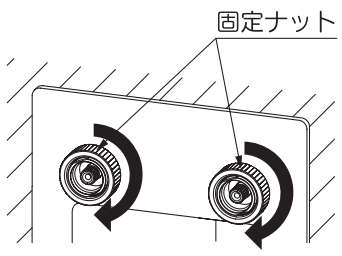


3. カバーを壁開口にはめ込み、固定ナット（2ヶ所）を手締めでねじ込む。



ポイント
固定ナットはカバーに当たってから、半回転増し締めしてください。

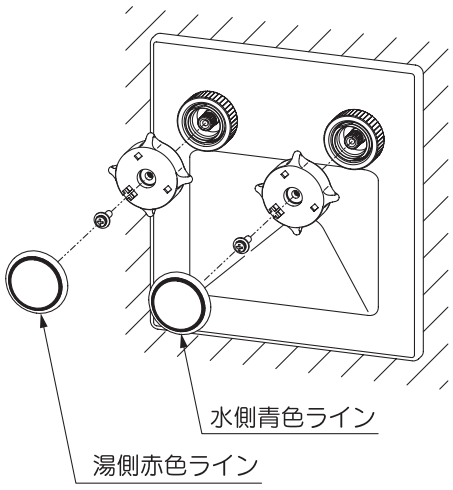
注意
- カバーが斜めに傾かないように調整する。



半回転増し締め
（工具使用禁止）

8 ハンドルの取付け

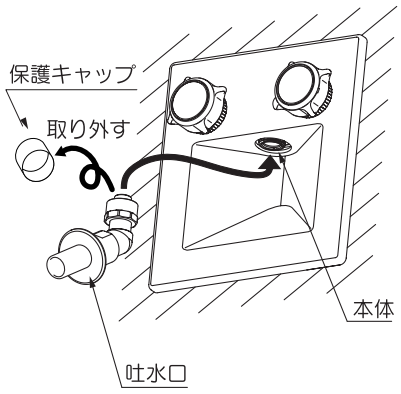
1. ハンドルを本体（2ヶ所）に差し込み、ハンドル用ねじをねじ込み、ハンドルキャップを取付ける。



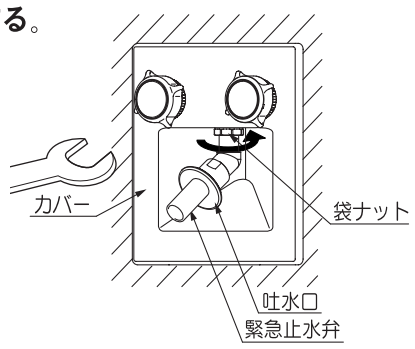
注意
- 水側に青色ラインのついたハンドルを、湯側に赤色ラインのついたハンドルキャップを取付ける。
- ねじはガタつきのないようにしっかり締め付ける。
  ※故障・破損の原因となります。

9 吐水口の取付け

1. 吐水口を本体に差し込む。



2. 袋ナットを工具で回し、吐水口を固定する。



ポイント

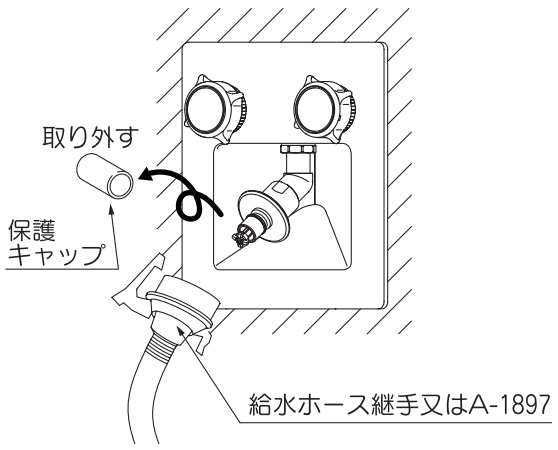
- 袋ナットが差し込めない場合は埋込ボックス固定位置がズレています。ハンドル、カバーを外したのち、埋込ボックス固定ねじをゆるめて埋込ボックス端部と壁仕上げ面にそろえて固定しなおしてください。

注意

- 袋ナットはガタつきのないようにしっかり締め付けてください。
  ※漏水の原因となります。
- 袋ナット、吐水口、カバーにキズが付かないように注意してください。
- 施工後、必ずハンドルを閉め、緊急止水弁を押し、圧力を抜いてください。

水出し確認

洗濯機に付属の給水ホース継手又は当社A-1897を接続し、配管部の元栓を開け、ハンドルを開き、水が出るか吐水口接続部から水漏れしないか確認する。確認後はハンドルを閉め、保護キャップを取り付ける。



注意

- 全自動洗濯機の給水ホースは日本電気工業会規格（JEM1206）品を使用する。
  ※それ以外の洗濯機の給水ホースは漏水・異音の原因となります。

引渡前の確認

引渡前および故障時の点検は以下の要領で行ってください。

●故障と点検

現　象	考えられる原因	処置方法	点検箇所	参照項目
吐水しない	断水中	回復するまで待つ		
	逆止弁の破損（凍結等により）	逆止弁の交換	⑧	
流量が少ない	逆止弁にゴミが付着している	ゴミを除去する	⑧	
	配管途中に大きな抵抗がある	抵抗となる障害物を取り除く		
止水しない	コマパッキンにゴミかみしている	ゴミを除去する	⑥⑦	
	コマパッキンにキズがある	部品を交換する	⑥⑦	
	ハンドルがカバーや固定ナットに当たってそれ以上閉まらない	埋込ボックスの固定ねじを緩め、埋込ボックスの端部と壁仕上げ面位置を合わせて固定し直す	⑬	施工方法①埋込ボックスの取付
	給水ホースが接続されていない	緊急止水弁を押して圧を抜き、給水ホースを接続する	③	ご使用上の注意・水出し確認
希望の温度の水・湯が出ない	圧力が十分でない	圧力条件を確認する		
	逆止弁にゴミが付着している	ゴミを除去する	⑧	
水栓本体がガタつく	ねじに緩みがある	各場所のねじをしっかり締める	⑩⑪	
カバーがガタつく	固定ナットに緩みがある	固定ナットをしっかり締める	⑤	
	カバーパッキンが入っていない	カバーパッキンを入れる	⑫	
カバーと壁に隙間がある	カバーの位置がずれている	カバーを外して、つけなおす	④	
	埋込ボックスが手前にずれている	埋込ボックスの固定ねじを緩め、埋込ボックスの端部と壁仕上げ面位置を合わせて固定し直す	⑬	施工方法①埋込ボックスの取付
カバーが傾いている	カバーの固定位置がずれている	固定ナットを緩め、カバーの向きを調整し、締め直す	④	
ハンドル部がガタつく	ねじに緩みがある	ねじをしっかり締める	①②	
ハンドルがカバーに当たる	埋込ボックスの固定位置が奥にずれている	埋込ボックスの固定ねじを緩め、埋込ボックスの端部と壁仕上げ面位置を合わせて固定し直す	⑬	施工方法①埋込ボックスの取付
ハンドルと固定ナットに隙間ができる	埋込ボックスの固定位置が手前にずれている	埋込ボックスの固定ねじを緩め、埋込ボックスの端部と壁仕上げ面位置を合わせて固定し直す	⑬	施工方法①埋込ボックスの取付
吐水口接続部から水漏れする	吐水口のOリングにゴミかみしている	ゴミを除去する	③	
	吐水口のOリングにキズがある	部品を交換する	③	
カバー下部より水漏れする	継手本体のOリングにゴミかみしている	ゴミを除去する	③	
	継手本体のOリングにキズがある	部品を交換する	⑨	
	継手に樹脂配管の差し込みが不足している	樹脂配管を確認窓から見えるまでしっかり差し込む	⑨	施工方法③樹脂配管の接続

※点検箇所は下図を参照してください。